

う意識が表われている。逆に「秋田犬」「きりたんぼ」については、次世代に残したいとは思わないが他所に誇れるものである。

設問3 他地域と比較して劣る点

転入者が地域文化の立ち遅れを強調していたのに対し、地元では意識が低い。文化レベル自体が低いのか？一方、レジャー施設の遅れを感じている人が多い。経済インフラ（社会生活などを維持・発展させるための基盤構造）を指摘する声が多いのは転入者と同様の結果。やはり商店、商店街、商業というキーワードが寄せられた。気になるのは住民気質として「排他的」を挙げるひとが多いこと。地元のひとが排他的と感じているのはどういうことか。住民自らが、住民意識の悪さを挙げている点は見逃せない。前出の「排他的」

「足引つ張り」に加え「消極的」を挙げるひとが多い。

設問4、設問5の結果と照らすと「地元」に不満はあるが、自分から改善しようとは思わず、だれかが動いてくれるのを待っている」という基本姿勢が伺われる。

地元民の住民意識が劣っているとする件数が全体の二七パーセントにも上る。劣っている意識の内訳は「足引つ張り」「閉鎖的」「消極的」がそれぞれ同数でトップスリー。商業では、具体例として接客態度を問題視する声が多い。活気がない、駅前が寂しいなども複数いた。レジャー施設の充実を求める声は今回の調査全体を通じて多かった。

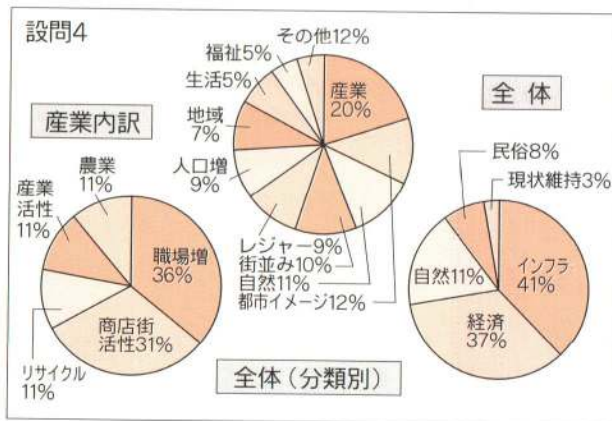
設問4 大館地方は

将来どうあるべきか

インフラ整備、経済環境整備に対する期待の大きさが伺われる。転入者の意見と重なる部分が見られる。したがってこの設問に対する回答は、比較的客観性の強いものと判断できる。項目分けすると、社会的な希望が強いことが伺えるが、細部を見ると住民が求めている地域の方向性、ビジョンはまったく統一されていない。強いていえば、自然を残しながらの都市開発という意識は比較的強いといえ

る。人口増加を求める声は多いが、その結果どうしたいかは不明確。具体的な意見としては、商店街活性化が挙げられている。職場増は、設問5にみられる「家族がそろう」ための条件ではないか？全体に非常に漠然とした統一感のないビジョンしかないということか？ 今回の地元住民対象調査を象徴する結果となった。設問3の見解と重なるが「あきらめ」が強く感じられる。

人口増加を求める声は多いが、その結果どうしたいかは不明確。具体的な意見としては、商店街活性化が挙げられている。職場増は、設問5にみられる「家族がそろう」ための条件ではないか？全体に非常に漠然とした統一感のないビジョンしかないということか？ 今回の地元住民対象調査を象徴する結果となった。設問3の見解と重なるが「あきらめ」が強く感じられる。



ての意識だろう。家族団らんも健康の結果と考えると、家族の健康こそが幸せという構図が浮かび上がる。意外に多かったのが、充実感をはじめとする個人的な精神状態についての発言。行動力に関連した回答は年代を問わなかった。お年寄りが元氣だということ。衣食住の充実、金銭的豊かさ、生活の安定といった回答は意外に少なかった。これらを総合すると、家族が全員元氣で毎日そろって夕食を食べ、それぞれ熱中できる仕事や趣味を持っていることが幸せになる。

設問4の地域方向性が「人口増」や「インフラ整備」に傾いていたのに対し自分の幸せは「家族」。このズレが前述の「地元への愛着のなさ」を感じさせる要因。

設問5 幸せって何ですか？

家族に関係した項目は三十七と断然多い。中でも「健康」という声が強いは高齢化社会を見据え

